

目次

■まえがき	1
■編集方針・凡例	2

序章 総説

国際的視点とは何か	9
時代区分と各章の構成	11

第1章 科学技術者層の出現と活動 (19世紀)

*資料	
1-1 医学研究成果の国別消長	23
1-2 19世紀における科学者の職業化の 条件	23
1-3 科学とフランスの国力	26
1-4 ドイツの科学	29
1-5 Science と Wissenschaft	32
1-6 海外留学生規則案	35
1-7 学者による科学の分類	36
1-8 王立学会 (Royal Society, 英)	38
1-9 科学アカデミー (Académie des Sciences, 仏)	44

第2章 大学の役割 (19世紀)

*資料	
2-1 ドイツの大学哲学部内における理 科系の興隆	59
2-2 ドイツの大学生の父親の職業と地 位	61
2-3 ベルリン大学とフンボルト	65
2-4 ベルリン大学の講座と教師数の変 遷	66

2-5 ドイツの大学に留学する外人学生	82
2-6 アメリカの大学院の拡大	84
2-7 エコール＝ポリテクニク	85
2-8 スイス連邦工科大学——工部大学 校の源流	90
2-9 欧米大学についての調査	92

第3章 政府・財団の機能 (第1次 大戦以前)

*資料	
3-1 万国博覧会の開催	105
3-2 国立物理研究所 (National Physi- cal Laboratory, 英) の創立	110
3-3 国立物理工学研究所 (Physikalisch Technische Reichsanstalt, 独) の 創立	113
3-4 国立標準局 (National Bureau of Standard, 米) と産業的研究	117
3-5 カイザー＝ヴィルヘルム協会 (Kaiser-Wilhelm Gesellschaft, 独) の創立	121
3-6 財団の科学・技術に及ぼす功罪	131

第4章 産業社会と科学技術体制 (第1次大戦以前)

*資料	
4-1 クルップ製鋼所及附属工場	149
4-2 色素化学研究に於ける独逸の優勢	153
4-3 基礎的工業研究	155
4-4 メロン研究所のフェロシッポ制度 の概況——科学研究を実施する方 法としての	160

第5章 西洋の低開発国へのインパクト (第1次大戦以前) 167

*資料

5-1 ベリーの日本遠征..... 176

5-2 ラッフルズとシンガポール=イン
ステイテーション..... 177

5-3 蘭印における科学..... 180

5-4 フィリピンにおける医学..... 182

5-5 台湾総督府研究所..... 185

5-6 中国における外人の活動..... 186

5-7 インドにおける高等教育..... 189

5-8 蘭印における技術教育..... 190

5-9 アメリカの対フィリピン教育政
策..... 193

5-10 中国における洋学..... 196

5-11 中国洋務派の軍事教育..... 197

5-12 中国における翻訳事業..... 200

第6章 第1次世界大戦と科学技術
動員 (1914~20) 203

*資料

6-1 列強工業動員..... 215

6-2 工学的研究機関に就て..... 219

6-3 米国学士院の戦時中の活動..... 223

6-4 同盟及联合国ト独逸国トノ平和条
約..... 226

6-5 学術の研究と国際関係..... 230

6-6 英国科学者協会の綱領..... 235

第7章 資本主義国アメリカにお
ける科学技術 (1919~39) 239

*資料

7-1 アメリカの研究開発費 (R&D)の
出資者..... 244

7-2 アメリカ政府の研究開発費 (R&
D) 246

7-3 TVAの出来るまで..... 246

7-4 アメリカの産業界における科学技
術者の分野別分布..... 248

7-5 アメリカの電気工業における科学
研究所——ベル電話研究所の場合..... 249

7-6 ロックフェラー財団の実験生物学
への援助..... 252

7-7 アメリカ科学者のドイツ留学時代..... 258

7-8 プリンストン高級科学研究所の設
立..... 259

7-9 物理学研究の中心のアメリカへの
移動の時期とその原因..... 270

第8章 社会主義国ソヴェトにお
ける科学技術 (1917~39) 275

*資料

8-1 ソヴェトにおける電気工業の発展..... 283

8-2 ソヴェトの第1次5カ年計画..... 285

8-3 スタハノフ運動..... 288

8-4 ソヴェトの主要学術研究機関..... 289

8-5 スターリンによる科学アカデミー
の大改革..... 291

8-6 ソヴェト科学アカデミーの発展..... 293

8-7 ソヴェトの科学研究所における研
究の計画化..... 294

8-8 ソヴェトの物理学..... 299

8-9 ソヴェトの産業教育..... 301

8-10 ソヴェト哲学者の相対性理論批判
に対する物理学者の反対..... 302

8-11 過誤と歪曲の時代..... 305

8-12 ルイセンコ論争..... 307

8-13 ソヴェトの科学史..... 309

8-14 ソヴェトの外国語雑誌..... 310

第9章 ファシズムの科学 (1930年
代) 313

*資料

9-1 ファシスト・技術者・自由業者組
合..... 320

9-2 イタリアの大学教授の追放..... 322

9-3 ナチス治下における研究体制..... 322

9-4 ナチス=ドイツの科学技術政策..... 323

9-5 ナチス=ドイツの技術水準..... 325

9-6 ナチスの大学統制..... 327

9 - 7	ナチス治下における大学の規模縮小	331
9 - 8	Wehrwissenschaft	333
9 - 9	ヒトラーの人種観・日本科学観	333
9 - 10	ナチス科学	335
9 - 11	シュタルクのユダヤ科学批判	336
9 - 12	大学職員免職に関する法律	337
9 - 13	フリッツ＝ハーバーの罷免	337
9 - 14	Academic Assistance Council	338
9 - 15	イギリス側のナチス科学批判	339
9 - 16	ドイツ書籍の世界における販路	340
9 - 17	ユダヤ物理学排斥への批判	342
9 - 18	ナチス科学の弁護	346

第10章 植民地政策対民族主義（兩大戦間） 349

*資料

10 - 1	インドの高等教育	356
10 - 2	インドネシアにおける日本の評価	358
10 - 3	国際学友会会則と活動状況	360
10 - 4	欧米諸国の対シヤム（タイ）文化工作	362
10 - 5	シヤム人の日本留学への関心	364
10 - 6	タイ国留学生の専攻別・留学国別統計	364
10 - 7	日本の対中文化事業	365
10 - 8	欧米諸国の対中文化事業	367
10 - 9	日本の中国測量留学生の誘致	372
10 - 10	日本科学書の華訳	372
10 - 11	中国人留学生統計	375
10 - 12	北京大学	377
10 - 13	朝鮮の高等教育機関と医療施設	379
10 - 14	朝鮮の内地留学生	382
10 - 15	台湾の教育	382

第11章 第2次世界大戦と科学技術動員（1939～47） 385

*資料

11 - 1	ドイツ軍部の研究組織	400
11 - 2	1940～45年に研究された問題の回	

	想	404
11 - 3	原子爆弾開発についての行政措置	408
11 - 4	第二次世界大戦後におけるアメリカの科学振興策	417
11 - 5	国連原子力委員会の設置	421
11 - 6	科学者憲章	422

第12章 原・水爆と科学者（1948～55） 427

*資料

12 - 1	知識人に対するメッセージ	438
12 - 2	アルバート＝アインシュタインの世界政府支持について	440
12 - 3	水素爆弾開発命令に対する反響	443
12 - 4	ラッセル・アインシュタイン宣言	446
12 - 5	第一回バグウォッシュ会議声明	449
12 - 6	原子力平和利用の国際会議	453
12 - 7	原子兵器とアメリカの政策	458
12 - 8	全米科学財団設置法	464

第13章 “平和共存” 下の科学技術（1956～65） 471

*資料

13 - 1	ソ連の第6次5カ年計画に関する第20回大会指令	488
13 - 2	サンドイッチ訓練および教育に関する報告書	489
13 - 3	国家安全保障のための科学	492
13 - 4	フランスの科学技術研究に関する1958年11月28日付政令	497
13 - 5	西ドイツ科学会議の設置に関する連邦および各州間の協定	498
13 - 6	南極条約	500
13 - 7	科学技術局設置などに関する「1962年再組織計画No. 2」	503
13 - 8	イギリス労働党と科学革命	507
13 - 9	ソ連の科学技術体制の再編成	515
13 - 10	各国の国家研究組織一覧ならびに研究費と国民所得	521
13 - 11	科学政策と経済成長——OECD科学閣僚会議討議資料	526

13-12	アメリカへの科学者の流入に関する統計	531
-------	--------------------	-----

第14章 低開発国における科学技術 (1945～65) 539

*資料

14-1	“国産科学者”の養成過程——日本の場合	546
14-2	低開発国と先進国との生活水準の比較	548
14-3	研究開発費(R&D)からみた低開発国	549
14-4	資本主義国および社会主義国からの低開発国援助	550

14-5	中国の第1次5カ年計画	551
14-6	中国の原爆実験	555
14-7	インドの第1次5カ年計画	556
14-8	インドにおける基礎研究と産業の発展	558
14-9	アフリカにおける科学技術——ソマリアの場合	562
14-10	ラテン=アメリカにおける科学技術——ラテン=アメリカの諸大学	566
14-11	軍縮の経済的・社会的影響	571

■統計表	575
■年表	579
■参考文献目録	595
■索引	609

